www.wako.ac.jp/gender/

vol. 18
2011年10月発行

GF通信
ジェンダーフォーラム
GENDER FORUM PRESS
女とは? 男とは? 考えるマガジン

和光大学　ジェンダーフォーラム　〒195—8585　東京都町田市金井町2160 和光大学ジェンダーフリースペース(G112) TEL 044—989—7777　内線4112

GF WORKSHOP

ジェンダーフォーラムと「現代社会とジェンダー」の共催で

プレイバックシアター・和光公演

あなたが語り、役者が演じる—劇団プレイバッカーズ

6月7日、コンベンション・ホールにプレイバッッカーズの方々をお招きして、1時から4時まで、ワークショップと即興劇のイベントを開催しました。「現代社会とジェンダーA」（井上担当）の受講者を中心に、学内外から約90名の参加を得ました。

「プレイバックシアター」は、1970年代のニューヨークで始まった、台本なしの即興劇の運動で、創始者のジョナサン・フォックスの指導の下に、現在50か国以上で展開されているそうです。日本では、1994年に宗像佳代さんが劇団プレイバッッカーズを創立し、各地で公演を重ねてきています。私は1995年の北京世界女性会議NGOフォーラムで、初めてプレイバックシアターに出会い、感動しました。宗像さんにお願いし、2004年に和光大学にきていただき好評を博しました。今回は、和光での2度目の公演です。

今回のイベントは、2部構成で、前半は参加者全員によるワークショップ。後半は、プレイバッッカーズによる即興劇でした。具体的な内容については、参加者がレポートで詳しく語っているので、その一部を紹介します。

〈ワークショップ——**田中志緒莉**・心理教育学科4年〉

はじめは会場内を歩き回り、太鼓の音がなった時点で近くにいる人とグループをつくり、お互いにジェンダーについて自分の経験や考えを交わしあった。初めて顔を合わせる相手だったが意外とすんなりと話すことができ、相手も快く話してくれていた。（中略）

次に、二重の円になり、外側の円の人と内側の円の人が顔を見合わせる形で立ち、出されるテーマについてお互いに役を演じた。例えば「家事を手伝ってほしい妻」

▲劇団プレイバッカーズの熱演（6月7日・E棟コンベンションホール）

「仕事が忙しいから無理だという夫」などの役を、その場でセリフを自分たちで考えながら演じた。演じるということは、私もそうだが多くの人が初めての経験だったと思う。しかもその場でセリフをすぐに思い浮かべなければならず、難しかった。ジェンダー関連のテーマだったため、出てくるセリフは「女なのだから」「男なのだから」といった言葉が多かったように思う。それだけ日本の現代社会では、男らしさや女らしさを求められているのだろうと改めて感じた。

最後は3人のグループになって、1人が「私がジェン

▲ワークショップでは参加者全員が動き回り、司会の合図で出会った組ごとに、ジェンダーの役割を演じます。

ダーを意識した時」の経験を話し、1人がそれを聞いて物語風に話し、1人が観客となって聞くということを、それぞれすべての役が回るように3回行った。初めに話した方は、「自分は男性であるが、以前から髪を伸ばしたかった。しかし周りの友達などから男なのだから短くしろと言われていた。それでも、髪を伸ばした。」ということを話してくださった。私は観客役だったので、もう1人の方が物語のように話されているのを聞いていた。物語のように話すときには、慣れていないということもあり、また考えながら話すので、話し方がゆっくりになる。そのゆっくりさが、その人の経験を大事に扱っているように感じられ、情景も浮かびやすくとなりとても良かった。

〈**即興劇——須賀由佳**・現代社会学科3年〉

会場の奥が舞台となっている。右手に演奏者がいてまわりには様々な楽器がある。中央には、椅子が用意され4人のアクターとよばれる役者が座っている。左側には椅子が二つ用意され、コンダクターといわれるインタビューするシアターの方がいる。もうひとつの椅子にはテラーとよばれる観客の中の誰かが座る。

当日は4人のテラーがいた。私自身もテラーになり、コンダクターよりインタビューを受けた。そして、音楽が始まり少しの間があって、即興劇が行われる。劇が終了するとコンダクターよりテラーである私にインタビューを受けた内容と即興劇での内容の再確認をする。そこで、短い感想を述べ私は自分の席に帰る。（中略）

短い時間でのインタビューがどのような即興劇になるのかドキドキしながら前奏の音楽を聴いていた。演じられた時間がどのくらいかはまったくわからない。すごく長かったようにも、短時間で終わってしまったようにも思えた。しかし、内容はすばらしいものであった。私が、悩んでいる事、迷っている事が彼らによって演じられることで再認識できた。自分が、今、ここにいることは間違いでなかったと確信でき、心の中のわだかまりを整理することが出来た気がした。

このほかにも、多くの参加者から、素晴らしい体験だったとの感想が寄せられています。日常の授業では伝えられない、気づきと感動を与えてくれた3時間でした。なお、宗像佳代著『プレイバックシアター入門』（赤石書店・2006年）は、ジェンダー・フリー・スペースで読むことができますので、関心のある方はどうぞ。

（**井上輝子**・現代社会学科）

GF WORKSHOP

ジェンダーフォーラムと「女性学」の連携ワークショップ

デートDV（デーティング・バイオレンス）

彼氏・彼女の恋人の間に起こる暴力を考える

恋人や夫婦など親密な関係の中で生じる暴力「デーティング・バイオレンス（デートDV）」のワークショップが6月29日開催され、私の担当する「女性学」の受講生を含め260名近くが参加した。講師は瀧田信之さん（湘南DVサポートセンター代表）。デーティング・バイオレンス（デートDV）とはなにか、その被害者にも、加害者にもならないためには何が大切か。現場で被害者のサポートを長年続けてこられた瀧田さんから示唆に富んだお話を伺うことができた。

配布されたチェックシートにある「携帯電話をチェックされる」「彼の不機嫌がイヤで、いうことをきく」「センスがない、こんなことも知らないと見下す」などの項目は、必ずしも暴力だとは認識されていない。暴力とは殴る、蹴るなどの身体的なものだけではなく、ことばで自尊心を傷つけることも、相手を束縛することも含まれる。他人同士の場合には、このような行為は許され

▲瀧口信之さん・2011年6月29日・E101教室

ない。ところが恋人や夫婦のような親密な関係になると、束縛も自分への愛情と錯覚し、暴力が暴力でなくなってしまう。しかし、このような恋愛は楽しいどころか傷ついたり、自信がなくなり落ち込んだりする。ときには相手を恐怖に感じたりする。これが暴力のサイン。愛されているサインではなく自分好みに無理強いし、思いどうりにしたいための暴力による支配であると瀧田さんは説明された。

続いて、暴力から身を守るためのキーワード「境界線」について２人で実演することで学習した。静止しているひとりに、もう一人が接近する。これ以上近づかれたくないとき「STOP」と意思表示をする。自分にとって、心地よい距離感は、必ずしも他者にとっては、そうではないこと。パーソナル・スペースは人によって異なること。それだけに態度があいまいだと、相手は気づかないで近づき、脅かし、境界線を侵してしまう。　親密な関係では「愛されたい」「相手を受け入れたい」という思いで他者の侵入を我慢（暴力を受け入れる）してしまう。暴力のもう一つのキーワードは「自尊感情」だった。暴力は自尊感情を奪い、自尊感情が低くなれば境界線があいまいになる。これは悪循環に陥いりがちだが、自尊感情が高ければ境界線があいまいになっても暴力をふるわれずにすむこともあると指摘され、暴力から身を守るためには不可欠だと説明がなされた。

ワークショップ後の参加者の感想には、DVに対する理解が深まりDVはとても身近な問題であること、DV問題に限らず他者との「境界線」に敏感になることが、他者への「思いやり」であり、人間関係を良好に保っていくのにいかに大切かを学んだという内容のものが複数あった。最後に外国のメディアが作成したDVに関するコマーシャルが紹介されたがいずれもインパクトの大きいもので、感想には、日本でも公共機関での広報を含め、意識啓発が必要ではないかという意見があった。

（**船橋邦子**・本学非常勤講師）

GF WORKSHOP

ジェンダーフォーラム主催・和光大生のための護身術講座

身を守るためのワザと心がまえを

全5回の講座で基本的な護身技法を練習しました

今年も護身術講座を開講しました。夏の初めの第二体育館。6月9日～7月7日までの毎週木曜日、全５回の開講でした。講師は昨年に引き続き、空手道部顧問の関根秀樹先生、師範の湯浅心先生。そして空手道部のみなさんに全面的な協力をしていただきました。

「自分より腕力や体力が勝る相手と闘っても、絶対に勝ち目はない。いかにすばやく逃げるか。これが大切なのです」と関根先生はおっしゃいます。つまり、自分に備わる力と手持ちの物を使って、すばやくそして安全に逃げる方法を学ぶという講座なのです。メニューは、ダメージの少ない転び方や手や腕・身体を捕まれた時のほどき方、逃げるきっかけを作る簡単な方法、さらに手持ちのバックなどを使って身を守る方法などです。　例えばおへそを見ながら体を丸くして転がることができれば、頭を打たずに済みます。この頭部を守る転び方は、どこで躓いて転ぶかわからない、事故にあうかもしれない普段の生活にもそのまま応用できます。さらにカバンは刃物に対する防御の道具にもなり、投げつけることで逃げるきっかけがつかめます。また危害を加えようとする相手の目やみぞおちなどの急所を、小さな力で攻撃することでも時間が稼げるのです。どれも日常の自然な動きを取り入れた無理のないものです。決して特別な訓練が必要な難しいものでもありません。

▲腕を掴まれた時の対処法。左は関根秀樹先生・第二体育館

今回は女子学生に限定せず、広く学内外からの参加を呼びかけました。その結果、女性の数を上回る男性の参

▲組になって練習する。中央の道着姿は湯浅心師範・第二体育館

加がありました。「身を護る」ことに対する関心に男女差はないようです。「こんなことまでしていいのかなぁと、とまどいがある」との参加者の声も聞かれましたが、自分を護るためには躊躇してはいけない。それが自分自身を大切にすることだと実感しています。護身術とは「自分を大切にするための術」なのです。痴漢を撃退するだけではなく、もっと広範な意義を含んでいるものなのです。

ジェンダーフォーラムでは、護身術講座をこれからも継続的に開講していきます。和気あいあいとした楽しい雰囲気の講座です。次回の開催が決まりましたらお知らせしますので、興味がある方々のご参加をお待ちしています。学外の方の参加も大歓迎です。

最後に、空手道部では部員を広く募集しています。年齢・経験は不問です。練習は第二体育館で月・水・金曜日の放課後に行います。健康のために空手をお考えの方や、空手道を極めてみたい方々の入部をお待ちしています。

（**阿野理香**・GFスタッフ）

OVERSEAS REPORT

フランスにおける「対人サービス」とジェンダー

「対人サービス」振興政策の展開と問題点

フランスでは近年、「対人サービス」と呼ばれる分野が発達してきている。これは、要介助者への在宅支援サービスや家事代行、子守、学習支援など、労働基準法の21の活動に関連する用語として用いられている。こうした動きの背景には、「対人サービス」を制度化・産業化することで、「ヤミ労働」をフォーマル化するとともに、多くの雇用を創出することを目標として進められている政策がある。

フランス政府が「対人サービス」を促進しようとしている理由としては雇用の創出の他に、出生率が他の先進国に比べて比較的高いとはいえ、高齢化が進むなかで対策が求められていること、女性の社会進出が進み、またワーク・ライフ・バランスの大切さが唱えられる中で「対人サービス」の需要が増していること、低学歴者や失業者などの社会的包摂が重要な課題とされるなかで、「対人サービス」の発達がその解決策となるのではないかという期待があることなどがあげられる。具体的な振興策として政府は、「全国対人サービス機構」（ANSP）という機関を設置したり、個人が難しい手続きなしに人を雇用できるように専用の小切手による支払いシステムを整備したり、税制の優遇措置を講じたりしている。

▲2010年、パリで開催された「対人サービスサロン」の様子

「対人サービス」振興政策は鳴り物入りで進められたものの、実施から数年経った現在では、さまざまな問題も指摘されるようになっている。創出された雇用の数は当初の見込みよりも少なく、投入された税金の額に見合うものではないとの批判や、実際にサービスや税制の優遇措置の恩恵を受けているのは、めぐまれた家庭であるといった指摘がまずあげられるだろう。加えて、ケア労働や家事労働に従事しているのは、パリ周辺地域でいえば、移民女性である場合が圧倒的に多く、非正規滞在者である場合もあるが、政府がそうした実態と正面から向き合おうとしていないことも問題点としてあげられるだろう。

「対人サービス」関連の仕事は人手が不足しているものの、政府は実際に仕事に従事している非正規労働者の正規化には消極的であり、新規の正規滞在・労働資格をもつ移民を「対人サービス」の仕事に就かせようとする動きをみせている。「対人サービス」の仕事を紹介されるのは主として女性であり、そうした方針は、ケアや家事労働を女性の仕事として固定化する方向にもつながっている。

フランスの「対人サービス」政策は、このように、国際的な格差と固定化されたジェンダー役割を利用しながら成り立っていると言え、今後どのように展開していくのかが注目される。

（**中力えり**・現代社会学科）

GF LECTURE

ジェンダーフォーラムと共通教養科目「法と人権」の連携企画

ジェンダーと家族制度について

新しい家族のあり方や家族法の問題を考える

今年度、和光大学に着任し、ジェンダーフォーラムの担当者に加えていただくことになりました徳永貴志と申します。憲法学を専門にしています。大学での講義は「憲法」「法と人権」などを担当しており、ジェンダーに関わる憲法問題も授業で扱います。

一般に憲法は、国家の支配に対抗するものとしての自由、すなわち「国家からの自由」を実現するための仕組みとして理解されるので、私人間の問題には立ち入らないのが原則です。しかし、ジェンダーに関わる問題については、国がつくった法制度上の差別だけでなく、人々の間に根強く存在する性差についての固定観念や性別役割分業に由来する不合理な差別などの社会的差別が存在するので、そうした差別に苦しむ人々を救済するために、場合によっては国家に対して積極的な介入を求める場面も出てきます（「国家による自由」）。ただし、国家による過度な保護や介入は、逆に人々の差別意識を固定化し、平等な社会の実現の障害になりかねないという諸刃の剣でもあります。

普段の授業では、様々な事例を紹介しながら、こうした憲法問題について学生たちに考えてもらっていますが、今年度は、「法と人権」の後期の講義に特別講師として茨城大学の齊藤笑美子准教授をお招きし、「カップルの生活と法」と題する講演会を開催します。齊藤先生は、諸外国の事例も参考にしながら、憲法学の視点で日本の家族制度の諸問題について研究されています。「法と人権」の受講者はもちろんですが、講演の内容に興味のある方はぜひ参加していただきたいと思います。

日時は2011年10月6日（木）の2時限（10：40～12：10）、場所はJ棟301教室です。

また講演終了後、ジェンダーフォーラム主催で、パートナーシップ制度や同性カップルなど、新しい家族のあり方に関する研究交流会を行います。齊藤笑美子先生にもご参加いただきます。こちらもぜひご参加ください。

（**徳永貴志**・経済学科）

GF STUDIES

卒論講習会―ジェンダーの視点から

卒論の書き方、教えます

ジェンダーフォーラムでは、ジェンダーの視点から卒論を書く人のための講習会を開始しました。

ジェンダー問題は、日常生活の隅々にわたって構造化され、浸透しているため、少なくとも人文･社会科学系の卒論執筆には、どのような研究テーマであれ、ジェンダー視点での考察が求められるといえます。とはいえ、ジェンダー問題に焦点を当てた研究も当然ながら存在します。学会でいうと、社会学会、心理学会、教育学会等のなかで、ジェンダー部会がある一方で、日本女性学会、日本ジェンダー学会、ジェンダー法学会、ジェンダー史学会等が存在するのは、こうしたジェンダーをめぐる研究状況を象徴的に示しているともいえます。

ジェンダーフォーラム主催の卒論講習会では、後者、すなわちジェンダーに焦点を当てて卒論を執筆する予定の３、４年生を対象として、各学部学科のゼミとは別の角度から、書き方のポイントをアドバイスすることを目的としています。井上輝子、竹信三恵子、船橋邦子の３名の教員が中心的に指導に当たりますが、ジェンダー研究にかかわる他の教員にも、随時参加を求めていきます。

１回目の5月18日には８人の学生さんが集まり、井上から、女性学・ジェンダー研究のジャーナル、先行研究のアンソロジー、データ集等の資料紹介をしました。第２回は７月13日に開催し、3人の４年生から卒論の中間報告を受けました。テーマはストーカー問題、腐女子、ライフヒストリーから見た性役割意識と、多岐にわたりました。学生7名に加えて教員3名、スタッフ2名で、各報告についてアドバイスと活発な議論がなされました。

今後の予定は、3年生の研究テーマ発表、1月末に卒論合評会などを計画中です。　（**井上輝子**・現代社会学科）

GF STAFF

はじめまして

はじめまして。新スタッフの阿野理香と申します。1987年に和光大学人文学部文学科を卒業したOGです。みんなが生活する社会を突き詰めて考えていくと、ジェンダーの問題にどんどん突き当たることを強く実感しています。微力ながらお手伝いをさせていただきます。よろしくお願いいたします。　（**阿野理香**・GFスタッフ）

和光大学総合文化研究所・2011年度文化企画

山川菊栄を知ってますか?

山川菊栄に関する映画とトークを開催します。

山川菊栄って、どういう女性か知っていますか。名前は聞いたことがあるけど、詳しいことはわからない、という人が多いかもしれません。でも、近代日本のフェミニズムの歴史を語るには、避けて通れない重要な人物です。

山川菊栄は1890年11月3日に生まれ、90歳の誕生日直前の、1980年11月2日に亡くなりました。生誕120年、没後30年に当たる昨年（2010年）には、多くの記念行事が行われました。菊栄は、明治生まれの女性には珍しく、高等教育を受けることができ、女子英学塾（現在の津田塾大学）を卒業し、英語力を生かして、生涯で15冊以上の翻訳を出版しています。

〈母性保護論争で論壇へ〉

もっとも山川菊栄は、翻訳家としてよりは、思想家、労働運動家として有名です。中でも注目されたのは、1918－19年に展開された母性保護論争です。当時（今でそうですが）、子育て中の女性が経済的に自立することは、非常に困難でした。子どもを産み育てることと経済的自立との間で、多くの女性たちが、悩み苦しんでいました。困難な状況を打開する道として、与謝野晶子が、職業を持ち経済的に自立することは、人間にとってもっとも基本的な営みであるから、女性も経済的に独立したうえで、子どもを産むかどうかを考えるべきだと主張しました。これに対して、平塚らいてうは、女性が子どもを産み育てるのは、国家的社会的な事業なのだから、国家や社会はそれを保護する必要があるという意見でした。二人の先輩フェミニストたちの論争に分け入って、両者の議論を整理したのが、28歳の若い山川菊栄でした。山川は、女性にとって、経済的自立も母性の保護もともに必要であるが、しかしそれは、現在の資本主義社会の中では実現せず、社会主義社会において初めて可能になると主張しました。

〈フェミニストで社会主義者〉

山川の主張の基礎には、社会主義思想がありました。1917年にロシア革命が起きたのをきっかけに、世界の各地で、社会主義運動が高揚しました。日本でも、社会主義についての学習会や演説会が開催され、労働者や知識層に社会主義の思想や運動論が急速に広まりました。近代社会の差別や疎外の構造を総合的に説明できる理論として、菊栄が社会主義に魅力を感じたのも不思議ではありません。この頃菊栄は、社会主義の理論家山川均と結婚し、二人は同志として生涯を共にすることになります。

1920年代に、日本でも社会主義の政党を作る動きが始まります。政党としての行動綱領を定めるに当たって、山川菊栄は、戸主制度の廃止や同一労働同一賃金等を盛り込んだ「女性の特殊要求」を提案します。男性活動家たちは、社会主義運動においては、男女平等は当たり前なのだから、あえて付け加える必要はないなどと反対しましたが、最終的には受け入れました。山川は、社会主義運動に加わりましたが、他方でフェミニストとして、男性活動家と異なる視点を貫いたのでした。

〈労働省初代婦人少年局長〉

暗い谷間の時代を経て、戦後、山川菊栄は、新しくできた労働省（厚生労働省の前身）の初代婦人少年局長に就任します。占領軍による民主化政策の中で、新憲法が発布され、女性は参政権を得たほか、民法改正によって家制度も廃止されるなど、日本社会は大きく変化しつつありました。婦人少年局長として、山川が最初にやったのは、新しくできた地方職員室（後の婦人少年室）の室長に全員、女性を抜擢したことです。各地の役人から推薦されてきたのは男性ばかりであり、「女性を起用するなら室長ではなくその下の主任にすべきだ」との声が強かったのですが、山川は自分で地方に出かけていって、眠っている人材を発掘し、女性を室長に起用します。また、実態調査に力をいれ、自ら炭坑や漁港、工場を視察しますが、その際、お茶以外の供応を一切拒否したそうです。紙芝居やポスターなどをたくさん作って作るなど、啓発活動にも力を注ぎます。こうして山川は、戦後の女性労働行政の基礎を築いたのです。

労働省退官後、山川は婦人問題懇話会を設立し、婦人問題研究の後進を育てます。婦人問題懇話会は、まだ女性学が生まれる前の1960年代から70年代にかけて、フェミニズムに基づく研究団体として、多くの実績を残しました。実は私、井上もこの会で育てられました。

〈和光大学で上映予定〉

このように、実に多くの活躍をした山川菊栄の足跡をたどる映画『山川菊栄の思想と活動―姉妹よ、まずかく疑うことを習え』が完成しました。いま各地で上映会が開催されていますが、和光大学でも11月3日に上映会を開きます。パネル「山川菊栄の生涯」の展示と、この映画の製作に当たった山上千恵子監督、労働運動史研究家の佐藤礼次氏と井上による座談会も予定しています。この機会をお見逃しなく。

（**井上輝子**　現代人間学部）

WAKO GENDER FREE SPACE HISTORY 2001—2003

和光大学ジェンダー・フリー・スペースの活動　2001—2003

2001	5月	ジェンダー・フリー・スペース開室—G 棟 112 教室で活動を始める
	6月	第１回ビデオ上映「不思議・面白・私の体『産婦人科との付き合い方』」
	7月	第２回ビデオ上映「不思議・面白・私の体『元気ですか?　からだのリズム』」
	7月	第３回ビデオ上映「不思議・面白・私の体『わたしと彼の避妊講座』」
	10月	講演「現代のラブ&セックス&ボディ」講師：キム・ミョンガン（京都精華大講師・性人類学）
	11月	ワークショップ「女と男」講師：坂井隆之
2002	1月	研究会「グローバリゼーションとジェンダー—〈アフガン女性〉を語るのは誰か?」講師：堀田碧（本学講師）
	6月	ジェンダーフリー・シネマウィーク『ぼくのバラ色の人生』『リトル・ダンサー』『ウーマン・ラブ・ウーマン』『ガール・ファイト』『ウォーター・ボーイズ』を上映
	6月	和光大生モデル講習会「ファッション・パフォーマンス—個性派〈モデル〉募集!」講師：深町玲（フェミニスト・パフォーマー）
	7月	第１回メディア&トーク「〈THE BEATLES〉が歌った女の子と男の子」講師：植村洋（本学教員）
	9月	「GF 通信　0 号」発行　—コラム「私とジェンダー批評」吉川信
	10月	パフォーマンス&ディスカッション「ジェンダー・フリー・ファッションショー—アジア各地の布を使って」講師：深町玲（フェミニスト・パフォーマー）・異文化交流室+表象研究会と共催
	10月	第２回メディア&トーク　張芸謀監督『初恋のきた道』上映　講師：加藤三由紀（本学教員）
	10月	第３回メディア&トーク　ニール・ジョーダン監督『クライング・ゲーム』上映　講師：吉川信（本学教員）
	11月	「DV（ドメスティック・バイオレンス）サバイバーのお話を聞く会」講師：原田恵理子（本学講師）・他
	11月	第４回メディア&トーク「ポルノ映画を見てみよう!」講師：杉本紀子（本学教員）
	11月	「GF 通信　創刊号」発行　—コラム「小倉遊亀展を訪れて」杉本紀子　「ハワイ大学の女性セミナー」井上輝子
2003	4月	第１回展示　学生企画「モノにみる女 / 男—日常生活の身近なモノからジェンダーを意識化する」——生活の中で使用するモノにも〈女のモノ〉〈男のモノ〉とジェンダーの色付けが・・・。
	4月	「ジェンダーを語る夕べ—モノとの関係で」
	5月	講演「戦争をジェンダーの視点で考える—〈平和・安全・暴力〉の意味を問う」講師：船橋邦子（本学講師）
	6月	GF シネマパレード『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』『彼女を見ればわかること』『同級生』『ハッシュ』を上映
	7月	研究会「アメリカにおける女性学の変容とそのポリティックス」講師：リンダ・ホワイト（コロラド大学）
	9月	「GF 通信　2 号」発行　—コラム「アイヌ民族・国家・国民・ジェンダー」村井　紀（本学教員）
	10月	メディア&トーク　ビデオ『エイズと共に生きた二人』上映　講師：ロバート・リケット（本学教員）
	10月	パフォーマンス・アート『恐れはどこにある』講師：イトー・ターリ（パフォーマー・本学卒業生）
	11月	講演「性は限りなく実体のふりをした可変概念である」講師：蔦森　樹（本学講師）
	11月	GF 秋のシネマ『ベッカムに恋して』『17 歳のカルテ』『8 人の女たち』『猟奇的な彼女』を上映
	11月	公開授業「暴力を選ばない男になろう—マイケル・カウフマンさんを囲んで」（ホワイトリボン運動）

FROM THE GENDER CAFÉ

ジェンダー・カフェ便り

ジェンダーフリースペースでは、これまでも各種イベント開催時など、事あるごとに部屋の利用を呼びかけて来ましたが、先日、嬉しいことがありました。偶然通りかかった学生が、開いているドアから顔を覗かせ「この部屋は何なのですか？」と興味を持ってくれたので、話しをしている内に船橋邦子先生も加わり、先生の持参された美味しいお菓子とお茶をいただきながらしばし歓談。「ジェンダー関連の書籍も沢山あるし、今まで接点の無かった先生とお話しもでき、お茶とお菓子もいただいて、来て良かったなぁ・・・」と喜んでくれ、後日、その際に撮った写真を載せたジェンダーフリースペースの紹介チラシを作成してくれました。その甲斐もあり、今年度の利用者は昨年度の同時期より増えています。

後期もまた、多くの方がたの来室を期待しています。皆さんに使いやすい部屋になるよう、今、スタッフ一同で少しづつ部屋の整備をしているところですので今後はますます便利になることと思います。まだご存知のない方のために、場所はG棟112教室です。　（**安河内みどり**・GFスタッフ）

GF BOOKSHELF

使いやすくなりました、GFS資料！

GFS資料整理を終えて

ミンミンと蝉の鳴くとある酷暑の数日間、GFスタッフと学生数名が集まってジェンダーフリースペースの“蔵書整理”を行ないました。手はじめに、井上輝子先生とミーティングをして新しい分類法について相談しました。書棚の本をみんな降ろすと、予想以上の資料の山にしばし唖然……。あとは、ひたすら分類作業とパソコンにデータを打ち込む作業です。夏の日も暮れかかり、やっと終わったころには学生たちも疲れと安堵の顔――。

今回の整理によって、本のジャンルが一目で判るようになったほか、和光大学ジェンダーフォーラムのホームページに掲載されるデータベースで蔵書の確認をしてからＧＦＳで本を借り出すこともできるようになりました。最新のジェンダー関係書籍や雑誌、漫画など幅広く収集しておりますので、ぜひお気軽にご利用ください。「松井やより文庫」や「坂本喜久子文庫」といった個性的な文庫もＧＦＳの自慢です。

（**宮嶋隆輔**・GFスタッフ/総合文化学科3年）

2011年　ジェンダーフォーラムの活動と予定

4月　「GF通信　17号」発行
　—女性学の誕生から現在まで—米田幸弘
5月?日　〈ジェンダー・カフェ〉オープン
5月18日　「卒論講習会—ジェンダーの視点から」
　講師=井上輝子・竹信三恵子・船橋邦子
6月7日　ワークショップ
　「プレイバックシアター—あなたが語り、役者が演じる」
　劇団プレイバッカーズ
6月9日—7月9日　ワークショップ
　「和光大生のための護身術講座・全5回」
　指導：関根秀樹・湯浅　心
6月29日　ワークショップ
　「デーティング・バイオレンス—恋人からの暴力」
7月13日　「第2回卒論講習会」
　講師=井上輝子・竹信三恵子・船橋邦子
9月30日　「ジェンダー・スタディーズ・プログラム」の
　履修者1名に履修証明書を発行
10月6日　講演「カップルの生活と法」
　講師=斎藤笑美子茨城大学准教授
10月　「GF通信　18号」発行
11月3日　主催=和光大学総合文化研究所
　山川菊栄に関する映画とトーク
　映画『山川菊栄の思想と活動』上映
　監督、労働問題研究家、女性学研究者による座談会
　パネル展示「山川菊栄の足跡」
　会場=和光大学ぱいでいあ
12月　「第3回和光流クッキング」
2012年1月　ジェンダー関連卒業論文発表会